

被災地への全国からの 応援職員を紹介します

平成28年12月

- ①氏名 ②派遣元団体 ③所属課(業務内容)
④派遣期間 ⑤自己紹介

広野町

- ①市脇 眞亀子 (いちわき まきこ)
②福島県
③町民保健課保健センター(健診、保健相談等)
④平成27年5月1日～平成29年3月31日まで

⑤福島県の任期付保健師として広野町に派遣され保健センターで保健師の仕事をしています。

前職は東京での都市型保健でしたので、担当地域全員を把握できるような活動は初めてで貴重な経験となりました。

広野町は塩分摂取量が多く高血圧対策が課題であり、様々な保健活動を行っています。

保健センターでも減塩を意識して、落語好きな所長の「一日一笑」の掛け声職員が「塩ショウショウ」と唱和して毎日の仕事が始まります。

(飲み会がある日は「酒ショウショウ」に変わります)



- ①浅田 光義 (あさだ みつよし)
②復興庁 福島復興局
③環境防災課(応急仮設住宅担当)
④平成26年6月1日～平成29年3月31日まで

⑤私はアフリカの貧困問題や紛争後の復興に関する仕事を志してきました。西アフリカのセネガルでの活動を終えたころ、東日本大震災が起きました。安心・安全な経済大国だと思っていた日本の福島で何十万人もの方が、故郷を離れて避難を余儀なくされました。私は、福島で働く決意をして、縁あって広野町で応急仮設住宅の担当をすることとなりました。仕事は時に大変ですが、日々、復興する町を感じられることはとても貴重な経験です。

①児玉 淳司（こだま じゅんじ）

②宮崎県宮崎市

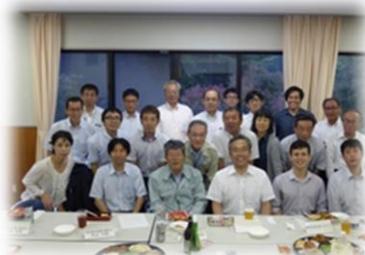
③復興企画課（復興事業に係わる企画、建設業務等）

④平成 27 年 4 月 2 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤・過去に災害派遣予定で2度派遣が中止になったことがあり、被災地復興支援への思いが募り、退職を機に希望しました。

・広野町は東北の南部に位置し、黒潮の影響を受け、派遣元の宮崎市に似て、温暖で穏やかな気候に恵まれ、人もやさしく住みやすいと感じています。

・被災後6年目を迎え、町職員、他自治体からの派遣職員及び宮崎市からのこれまでの派遣者9人等の力で復興整備も大きく進捗し、ふたば未来学園高校開校等もあり、町に活気が戻り、目に見えて復興が進んできていると感じています。



・職場は復興に係わる企画運営の業務もあり、町民の帰還促進のためのイベント業務等を通じて活気があり、いつも刺激を受けています。

・復興状況を派遣元に広くPRしていくとともに、自治体間やイベント、防災士会等を通じて交流を促進していきたいと考えています。

・近年、国内の地震災害等で各自治体対応も増える中、復興をより効率的かつ円滑に進めるため、広域的な取り組みが出来ないかなと感じています。



浪江町

①榎本 龍朗（えのもと たつろう）

②神奈川県小田原市

③介護福祉課（臨時福祉給付金支給業務・慰霊碑建立工事）

④平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤現在、臨時福祉給付金支給事業や東日本大震災の慰霊碑建立工事などを担当しています。復興に向けて町全体で一生懸命取り組んでいる最中ですので、私も全力で頑張りたいと思っています。

（派遣職員の仲間たちと 右から2番目が私です。）



①徳村 勇二郎（とくむら ゆうじろう）

②福島県

③まちづくり整備課（計画係）

④平成 28 年 1 月 1 日 ～ 平成 28 年 12 月 31 日まで

⑤昨年9月に民間企業を定年退職しましたが、以前より定年後は会社に残るより、自分のやりたいことをと模索していました。幸いにも定年直前に福島県任期付職員に採用決定、今年1月から希望していた浪江町に赴任しています。浪江町では前職の経験を生かし、中心市街地の再生計画を主に担当しています。来年に予定されている避難指示解除後に向けて、町民と職員が一体になって明日の「なみえ」を語り合い、夢を描く、楽しい毎日です。



（浪江町のキャラクター「うけどん」です。）

富岡町

①後藤 文彦（ごとう ふみひこ）

②神奈川県

③復旧課復旧係

④平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤東日本大震災の報道を見るたび、何かしら役に立てないかと思い、定年を機に福島に来ることを決意しました。微力ですが役に立ちたいと思っています。

富岡町役場で働かせてもらい、色々な相違に戸惑いもありますが、町役場は以前のような富岡での暮らしを取り戻すために早期に復興しようとする意気込みを感じます。県は観光や食文化の発信に力を入れ、被災前以上にしたいという思いが伝わってきます。



福島市

①芦澤 幸雄（あしざわ ゆきお）

②神奈川県

③除染施設整備課（除染土仮置場の設計・監督）

④平成 26 年 7 月 2 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日まで

⑤東日本大震災の報道を目にし、復興に少しでもお役に立ちたいと思い応募しました。

帰省するたび、福島の実状についてよく聞かれますが、福島県全体が未だ原発事故付近と同じように考えている方も、残念ながらいらっしゃいます。こちらに赴任し福島市の自然の豊かさ、温泉のすばらしさ、福島市の人の温かさを知りました。多くの方に福島市の良さを知っていただくためには、風評被害をいかに払拭していくかが大きな課題だと思えます。微力ですが、少しでもお役に立てればと考えています。



相馬市

①栗山 幸一（くりやま こういち）

②茨城県龍ケ崎市

③都市整備課（道路法等許可に関する事務等）

④平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤平成 27 年度定年退職しました。そのような時に相馬市への災害協力派遣職員の照会があり家族とも相談し単身赴任での派遣を決めました。

相馬に赴任しあつという間に春夏秋が過ぎ、それぞれの季節はとても過ごし易く感じました。冬は寒風が強いと聞きましたが、それもまた楽しみにしています。

震災の復旧復興は大きく前進はしていますが、東北地方の全体を見るとまだ道半ばと思います。さらなる復旧復興を心から願っています。



①須藤 俊明（すどう としあき）

②栃木県日光市

③建設部都市整備課まちづくり係（土木工事担当）

④平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤東北地方のニュースを度々拝見しており震災復興のお役に立てればと思い、派遣を志願しました。

新たな地に足を踏み入れ言葉や生活環境の違いに戸惑いもありましたが、充実した日々を過ごさせて頂いております。

また、派遣先の相馬市の職員は、一人一人の責任感が強く見習うことが多々あると感じ、職員が一丸となって復興に向け前進していると思います。一日も早い復興を願うとともに日々の業務に全力で取り組みます。



①宇佐見 裕二（うさみ ゆうじ）

②愛知県江南市

③土木課（復興道路用地買収事務）

④平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤派遣期間も残り 3 か月余りとなりました。自分の仕事は復興道路を整備するための用地買収ですが、交渉先では、市民の方に温かく迎えていただき、また、職場の雰囲気も良く、新庁舎でも仕事をする事ができ、充実した日々を過ごさせて頂いております。

これから、寒さが厳しくなる季節ですが、趣味のスノーボードや職場の仲間たちと地物の魚介類を使った鍋、温泉巡りなどをして、東北の冬を満喫したいと思います。

①大谷 直毅（おおたに なおき）

②栃木県足利市

③建設部土木課土木係（復興道路工事担当）

④平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤本年 4 月 1 日から福島県相馬市で派遣職員として復興

道路の工事を担当している大谷と申します。派遣の動機は、

今までの経験を活かし、復興のお手伝いができればと思い、志願いたしました。相馬市土木課の一員として、道路行政の最前線で日々、業務を行うことができ、貴重な経験となっています。

地元の方との縁を大切にし、業務に励んでいきたいと思っております。



①飯島 孝幸（いいじま たかゆき）

②東京都稲城市

③建設部土木課土木係（復興道路用地担当）

④平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤本年 4 月より福島県相馬市で派遣職員として復興道

路の用地を担当している飯島です。数年前より微力ながら復興のお手伝いができないかと、希望しておったところ、本年公務員生活 25 年目を迎える節目の年に、お手伝いにお伺いできることとなりました。素晴らしい上司や同僚に恵まれた職場環境の中、精一杯お手伝いしたいと思っています。

①平田 太（ひらた ふとし）

②広島県広島市

③建設部土木課（復興道路用地取得事務）

④平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤報道で東日本大震災の被災状況を目の当たりにし、1 人でも多くの方に笑顔になってもらえるよう、微力ながら尽力したいと考え、被災地への職員派遣に応募しました。

相馬市民のみなさんに温かく迎え入れていただき、スポーツ活動や地域行事にも参加させていただいています。

東北地方には、良質な温泉、風光明媚な名所・文化財などがたくさんあり、休みを利用して訪れています。



南相馬市

①柏崎 賢（かしわざき けん）

②千葉県成田市

③都市計画課（街路公園係）

④平成28年4月1日～平成29年3月31日まで

⑤成田市からは、平成25年度から南相馬市へ職員を派遣していた経緯があったことや、私自身、以前から土木技師として被災地の復興に貢献したいという思いがあり、派遣を希望しました。

現在、津波の被害を受けた北泉海浜総合公園の復旧工事を担当しております。将来、この公園に一人でも多くの市民の皆様が、笑顔で来て頂けることを願っております。また、それが復興の一つの区切りになるのではと思っています。



①鈴木 正勝（すずき まさかつ）

②東京都杉並区

③税務課（資産税業務）

④平成28年4月1日～平成29年3月31日まで

⑤東京都杉並区からの派遣職員として税務課資産税係で勤務しています。固定資産税は派遣元では取り扱っていない業務のため新鮮な気持ちで業務に取り組んでいます。

資産税係には派遣職員が5名いるため、休日には派遣職員や現地職員の方と福島県内や東北各県を観光したりしています。

①松本 充博（まつもと みつひろ）

②神奈川県

③農林整備課（海岸防災林造成・ほ場整備補助）

④平成28年4月1日～平成29年3月31日まで

⑤被災県の中でも原発事故の関係で復興が一番遅れている浜通りの復興に携わりたくて神奈川県に採用され派遣してもらいました。

私が勤めていた大阪府と比べて県域も市町村の面積も広く移動の大変さが身に染みました。

職場は技術職が多くアットホームな雰囲気です。

現在担当している海岸防災林の造成（市施工部分）が平成30年度でほぼ完成するのでそれまでは残って担当したいと考えてます。

震災から時間がたつにつれ復興への思いがかわってきているように感じられます。後期復興期間内にハード整備が終わるといいと思います。



①藤田 清志（ふじた きよし）

②石川県七尾市

③総務部税務課

④平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤震災後、七尾市からは復興応援として毎年職員が派遣されていたこともあり、自分の経験が少しでも南相馬市に役立てればとの思いで派遣を希望しました。

税務課では土地評価に関することを担当し、現在は平成 30 年度の評価替え準備として、基準となる標準地の選定作業を進めております。

甚大な被害を受けた南相馬市が一日も早く復興できるよう皆さんとともに取り組んでいきたいと思えます。



①竹ヶ原 弘美（たけがはら ひろみ）

②東京都杉並区

③市民課 窓口業務

④平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤自分に何ができるかわからない状態で希望してきました。

配属されたのは市民課で、住民異動届や証明発行は派遣元でも経験がありましたが、被災地ならではの証明書発行や固定資産の証明書など、いまだに戸惑うことがあります。

プライベートでは乗馬や気球、海や山も近く、東京ではできない体験をさせていただいています。

①但木 進一（ただき しんいち）

②栃木県鹿沼市

③建設部都市計画課（防災集団移転促進事業に従事）

④平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤鹿沼市を定年退職後、再任用職員として南相馬市の復興支援に来ています。技術職として「防災集団移転促進事業」の移転先の団地造成を担当しています。はじめは 1 年間の予定でしたが、気付いたら 3 年目となっていました。

計画した全ての団地が整備され、新居に入られる移転者の皆様の笑顔に接する度に、この事業に携われたことを誇りに思います。



①滝沢 祐貴（たきざわ ゆうき）

②新潟県三条市

③商工労政課（雇用関係補助金、労働者福祉等）

④平成27年4月1日～平成29年3月31日まで

⑤新潟県三条市から派遣され、2年目を迎えました。

商工労政課では雇用対策に関する業務を担当しています。

震災からの“復旧”は進みましたが、市内の事業者の方とお話していると、南相馬市を含む相双地域の“復興”はこれからが正念場だと感じます。

残された派遣期間、任せられた仕事を精一杯取り組むことはもちろんですが、三条市に戻った後も福島県のため、南相馬市のために、自分ができるところを探していきたいと考えています。



①中田 崇裕（なかだ たかひろ）

②栃木県佐野市

③土木課（道路の災害復旧等）

④平成27年4月1日～平成29年3月31日まで

⑤福島県のお隣の栃木県から参りました。隣県でありな

がら、福島へ訪れる機会は数えるほどしかありませんでしたが、いざ働いてみると、自然、文化、歴史などなど魅力的なコンテンツにあふれた地域だと認識いたしました。その根源は紛れもなく福島に住む方々の力だと実感しております。

現在、復興の最中ですが、復興からさらなる飛躍へと昇華していくと確信しております。微力ながら、その道中への協力ができることを誇りに思います。

新地町

①大濱 賢雄（おおはま たかお）

②埼玉県坂戸市

③農林水産課 農林水産係

④平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤以前、建設資材商社に勤めていた頃に東日本大震災が発生し、直後に宮城県石巻市で応急仮設住宅の建設に携わっていました。坂戸市役所に入庁後、被災地派遣の募集があり、以前ご縁賜った東北に少しでも恩返しできればと思い志願しました。

東北各地の魅力を満喫するとともに、日々の職務においても非力ながら精一杯復興に向けてのお役立ちが出来ればと思っています。



①横道 亮（よこみち りょう）

②長崎県諫早市

③建設課（建設係）

④平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤昨年まで来ていた先輩方の仕事を見て、自分もこの仕事に携わりたいと思い派遣を志願しました。慣れない環境で不安でしたが、回りの方々によくして頂き充実した日々を過ごせています。復興の役に立って自分も成長できるように頑張りたいと思います。

①大木 正規（おおぎ まさき）

②和歌山県 みなべ町

③復興推進課事業係

④平成 26 年 10 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日まで

⑤みなべ町では、新地町の一日も早い復旧・復興を支援し、また被災地でのさまざまな体験を地域の防災に活かすべく、

平成 24 年度から職員を派遣しており、これをきっかけに平成 26 年 12 月には新地町と「災害時相互応援に関する協定」を締結しました。

今後発生が予想されている南海トラフ巨大地震などの大規模災害に直面したとき、職員としてだけでなく一個人としても、実際に現地で様々な体験をすることは必ず有意義なものとなると思い、みなべ町の上司や同僚の理解もあり派遣要請に応じました。

復旧・復興事業は多岐にわたり、苦労もあるがよい経験をさせてもらっていると感じています。未だ復興は道半ばですが、微力ながら精一杯尽力させて頂きたいと思います。



飯 館 村

- ①山口 美智子（やまぐち みちこ）
- ②飯館村任期付職員（前職、千葉県白井市）
- ③健康福祉課 地域包括支援センター 保健師業務
- ④平成 28 年 4 月 2 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日予定

⑤保健師の支援を必要としている市町村があるか復興庁に問合せしたところ、飯館村を紹介していただいたのが御縁でした。この時は、飯館村がどんなところか、申し訳ないですが、ほとんど知らずにいました。

4月、任期付職員として仮設住宅に居を移し、福島の大いなる山々を毎日愛でられる幸せを感じていました。

しかし、東日本大震災以降の村の説明を受け、包括支援センター業務の申し送りを受ける中、訪問先の遠距離移動を聞いた時は、正直自分に出来るのだろうかと立ちすくんでしまいました。職員は、よく今まで村の人達を支えてきたものだと、心底驚嘆しました。

今は、心優しい仲間たちと一緒に、帰村に向けて何をしていかなければならないかを日々検討しています。自分の出来ることを頑張る毎日です。



双 葉 町

- ①岡崎 正道（おかざき まさみち）
- ②茨城県かすみがうら市
- ③復興推進課（支援員）
- ④平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
- ⑤地方公務員として、被災地のために何かできることはないかと思い、派遣を希望しました。

今までとは、違う環境の生活に戸惑うことも多々ありましたが、役場職員の方々は、心温かく優しい方が多く、毎日充実した日々を過ごしています。

双葉町復興推進課で復興に関する業務に携われたこと、双葉町職員や他の派遣職員と交流を持てたことは貴重な経験となりました。

今後は、被災地の職員の負担を少しでも軽減できるよう同じ立場で働く職員として、帰還・復興に向け、一緒に歩んで行けたらと思います。



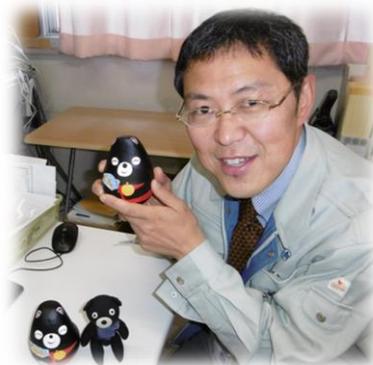
大 熊 町

- ①大橋 孝啓（おおはし たかひろ）
- ②福島県
- ③住民課 住民係
- ④平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで
- ⑤社会人になってから首都圏で仕事をしていたが、

震災後に福島県に戻り、昨年 4 月より大熊町役場会津若松出張所にお世話になっています。

役場の仕事は未だ日々勉強ですが、周囲の職員の方々や、町民の皆様のおかげを持って、前向きに取り組んでいます。

任期中に、どこまで帰町に向けた展開があるか分かりませんが、町の役に立てるよう頑張りたいと思います。



川 俣 町

- ①坂井 将哉（さかい まさや）
- ②愛知県日進市
- ③原子力災害対策課（直轄地域を除く除染関係業務）
- ④平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日まで
- ⑤日進市では原発事故の翌年より福島へ職員派遣を続けています。前任者の方々の話を聞くにつれ、自分も何かお役にたてれば…と思うようになり、現在川俣町にお世話になっています。除染事業は住民の方々と接する機会が多く、みなさんの要望や不安などまだまだ多く、原子力災害からの復興はまだ道半ばなのだと日々感じています。任期はもう折り返し地点をすぎているですが、最後まで自分の出来ることでお役にたてるよう頑張ります。



平成 28 年 12 月 発行

編集 福島県総務部市町村行政課
TEL 024-521-7057
FAX 024-521-7904